令和２年度事業報告書

（2020 年度）

社会福祉法人ももやま福祉会

ぐんぐんハウス

令和２年（2020 年）度事業計画

◇　理念

「人として豊かに生きる」

◇　基本方針

1）　事業基盤の強化

既存事業の整備や見直しを図り、基盤強化に努めます。

計画的に設備・備品の交換を実施して行きます。

2）　職員の資質の向上

社会福祉法人の職員として必要な資質を高めることを目指します。

3）　魅力ある職場づくり

風通しの良い組織風土の醸成や職場環境の整備に取り組みます。

あわせて人材育成の仕組みを作り、働きがいのある職場づくりを通して人材確保に努めていきます。

4）　経営の安定を図る

中期事業計画の実施（平成２８年度より継続事業）

山科区椥辻ぐんぐんハウス椥辻グループホーム運営（男子）

山科区椥辻ぐんぐんハウス椥辻生活介護事業運営

伏見区醍醐ぐんぐんハウス醍醐グループホーム運営（女子）

居宅支援事業（移動支援）運営

第２期中期事業計画の策定（令和３年度より）

事業点検委員会の設置

5）　社会福祉法人としての地域貢献事業

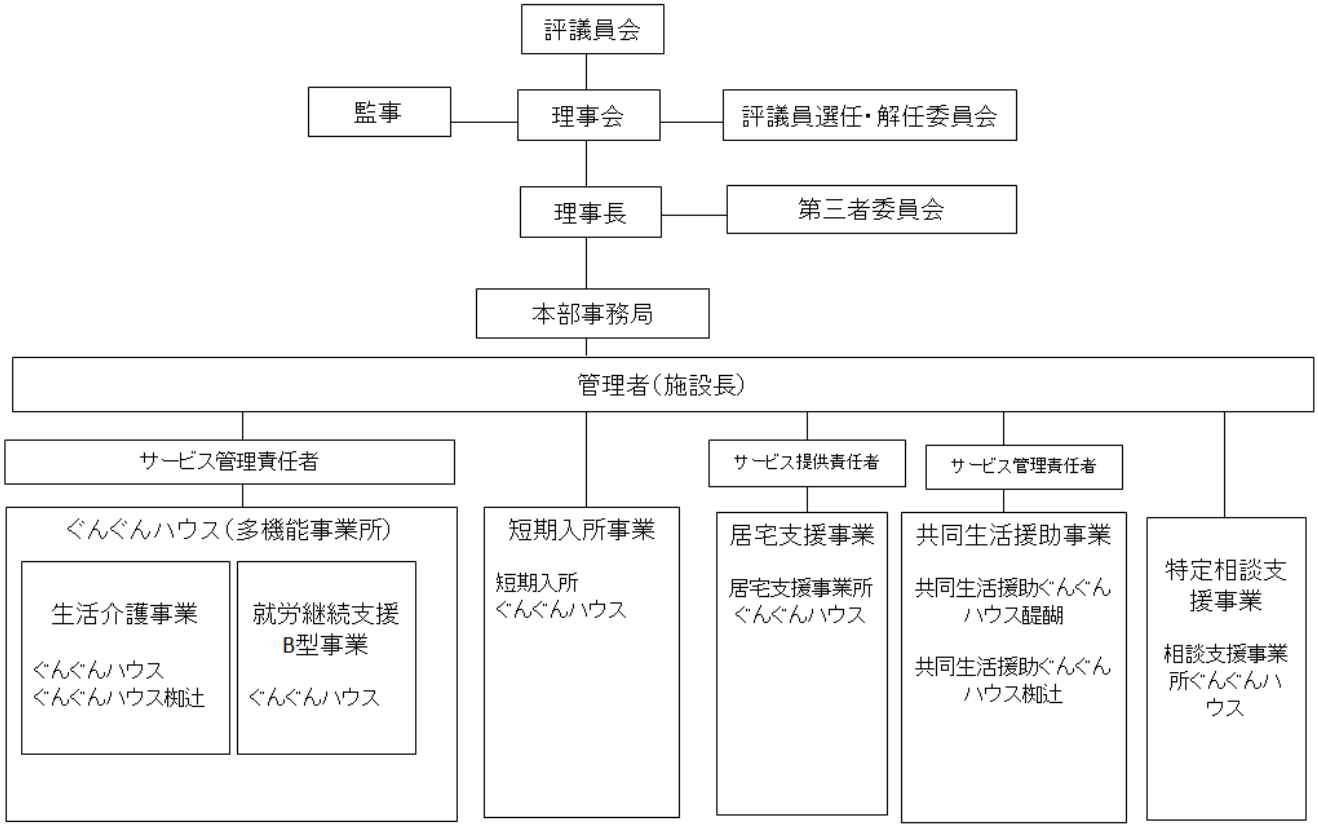
障がい児おやこ食堂の開催年４回（中止）

6）　災害時の対応

災害時における BCP（事業継続計画）の策定と研修実施

災害時には山科区椥辻施設を拠点とする

社会福祉法人ももやま福祉会組織図



目　　次

1.　施設概要 1
2.　アトリエ班 2
3.　漉き班 4
4.　短期入所事業 6
5.　相談支援事業報告 7
6.　居宅介護事業 8
7.　共同生活援助事業 9
8.　自治会 11
9.　給食 12
10.　防災、安全対策 13
11.　研修 14
12.　手づくり市 15
資料
資料-1　理事会・評議員会・各種委員会開催状況 1
資料-2　苦情対応第三者委員会 2

1.　施設概要

◇　利用者状況（表の数字は全て（人））

生活介護事業

年代	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	合計
男性	3	8	7	6	2	26
女性	0	2	0	5	1	8
合計	3	10	7	11	3	34

障害支援区分	1	2	3	4	5	6	合計
男性	0	0	2	1	7	16	26
女性	0	0	0	2	1	5	8
合計	0	0	2	3	8	21	34

就労継続支援 B 型事業

年代	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	合計
男性	0	2	0	4	0	6
女性	0	1	1	0	0	2
合計	0	3	1	4	0	8

障害支援区分	無	1	2	3	4	5	6	合計
男性	1	0	0	2	3	0	0	6
女性	0	0	1	0	0	1	0	2
合計	1	0	1	2	3	1	0	8

◇　通所状況

住所地

エリア	人数	エリア	人数	
向島	13	深草	5	
淀・久我・羽束師	6	醍醐	5	
伏見・桃山	7	山科	1	
竹田	1	南区	4	合計 42

通所手段

送迎車利用	自主通所
31	11

2.　アトリエ班

◇　利用者

利用者 19 名　内　男 15 名　女 4 名

（利用者 2 名 4 月より通所開始）

◇　職員体制

正職員：8 名　　内　男 7　女 1

非常勤職員：6 名　　内　男 2　女 4

（週 5 勤務：3 名　週 3 勤務：3 名）

◇　2020 年度方針

・　健康、体力、歩行などの能力変化に対応してプログラム等により個別に対応していく。
・　意思表出、自己決定など主体的な活動ができるように支援していく。
・　四季の変化などをより体感できるようプログラムを充実していく。

◇　年間活動

・　入所式

4 月 1 日に実施した。感染症対策のため、集会は行わず、記念品と記念写真を本人、ご家族にお渡しする対応に変更した。

・　手づくり市

定期的に行われた手づくり市では自分の好きなものを選ぶ買い物体験をした。

◇　振り返り

年齢、身体能力、活動能力などの特徴に大きく差がある班であるが、今年度は、男女合わせて 9 名がグループホームに入居されるという大きな変化があり、グループホームに入居されたご本人たちだけでなく、その他の利用者へも大きな影響があった。

そのため、利用者それぞれの気持ちの変化をくみ取り、個々に対応する支援をしていくことに重点を置いて年間活動を行った。

感染症対策に気を配らなくてはいけない一年であったが、歩行などの日々のプログラムで、花などの季節を体感できるように場所を選んだり、作業室の壁に和紙で様々な創作物を作り、部屋の中に居ても色々な経験を得られるような企画を通年でおこない、楽しんでいただけた。

今年度は、日々の活動の中で大きなけがや事故など利用者に不安を与えることが無かった。次年度以降も安全に気をつけて、安心出来る環境の中で過ごしていただけるよう支援していきたい。

3.　漉き班

◇　利用者

利用者 23 名　　内：男性 17 名　女性 6 名
（退所者 11 月男性 1 名）

◇　職員体制

職員：6 名　　内：男性 5 名　女性 1 名
非常勤職員：6 名　　内：男性 1 名　女性 5 名
（週 5 勤務 1 名　週 3 勤務 4 名　週 2 勤務 1 名）

◇　2020 年度方針

全体

・　屋外での活動を増やし楽しみを見出していく
・　怪我なく健康に配慮して楽しく過ごす

作業(生活介護利用者)

・　作業の習熟度を上げていく
・　作業中は集中する時間を増やし取り組む

作業（就労継続支援 B 型利用者）

・　作業中と休憩時間とのメリハリをつけて取り組む。
・　正確に丁寧に取り組めるように技術の向上を図る

◇　作業（下請け、和紙製品）

企業のノベルティグッズである下請けを中心に取り組んだ。
また、下請け先を増やしたことで定期的に作業に取り組める様になってきた。

◇　歩行訓練

季節や天候などを考慮して、場所を配慮する事で年間を通して歩行訓練を実施できた。

◇　季節に応じた取り組み

桜の時期のお花見、年始の初詣といった取り組みも、感染症予防のために人が少ない時間帯や場所を考慮して現状でできる事を行った。

◇　出店販売

今年度は施設外での活動には参加していないが、定期的に行っていた手づくり市で職員、利用者が販売活動を行った。

◇　振り返り

年間を通して班の特色である就労訓練、作業面を取り組む事が出来た。その他の活動についても、毎日の下請け作業に取り組みつつ、プログラムを工夫することで、定期的に歩行訓練や季節に応じた取り組みができた。

年度途中で１名の方が退所されたが、それ以外は大きなけがや事故なく取り組みがきた事は良かった。

次年度も大きな事故等を未然に防いでいける様に職員間での連絡、情報を密にして取り組んでいきたい。

4.　短期入所事業

◇　実績

	開所日数（日）	利用者数（人）	延べ人数（人）	緊急利用（日）
4 月	6	16	32	0
5 月	6	12	24	0
6 月	10	18	34	0
7 月	8	20	36	0
8 月	5	15	27	0
9 月	7	17	31	0
10 月	7	18	32	0
11 月	9	21	37	0
12 月	7	21	37	0
1 月	6	18	33	0
2 月	8	17	30	0
3 月	10	15	27	0
合計	89	208	380	0

令和元年度実績

開所日数（日）	利用者数（人）	延べ人数（人）	緊急利用（日）
79	265	473	12

◇　振り返り

・　新型コロナウィルス感染症の蔓延により利用を控えられる利用者もおられた。

・　消毒やマスク、手袋に加え、来所時、起床時 2 回の検温や食事時間をずらす、可能な方には居室で過ごしていただくといった感染症対策を行った。

・　今年度は緊急利用の問い合わせは、前もって事情をお聞きして調整できていたので、直前の問い合わせはなく、ある程度、計画的な受け入れができていた。

5.　相談支援事業報告

◇　実績

月	その他	月	その他
4	計画 2名、モニタリング13名	10	計画 0名、モニタリング7名
5	計画 2名、モニタリング6名	11	計画 5名、モニタリング7名
6	計画 2名、モニタリング7名	12	計画 8名、モニタリング7名
7	計画 4名、モニタリング9名	1	計画 2名、モニタリング8名
8	計画 4名、モニタリング8名	2	計画 4名、モニタリング11名
9	計画 3名、モニタリング8名	3	計画 2名、モニタリング11名
		合計	計画　38名、モニタリング 102名 総件数　140名

利用状況

※令和2年4月より2名利用開始。3ヶ月に1度のモニタリングとする。
※令和3年1月より1名利用開始。3ヶ月に1度のモニタリングとする。
※令和3年3月より1名利用開始。3ヶ月に1度のモニタリングとする。

令和元年度実績

計画　49名　モニタリング81名　総件数　130名

6.　居宅介護事業

◇　利用者状況

契約者数 25 名

◇　職員体制

5 名（内　正規職員 4 名、非常勤職員 1 名）

◇　令和 2 年度利用実績

月	居宅介護		移動支援	
	利用者延べ人数（人）	実施延べ時間数（時間）	利用者延べ人数（人）	実施延べ時間数（時間）
4	8	105	6	103.5
5	8	95	5	97.5
6	11	119.5	8	110.5
7	11	131	10	132.5
8	12	121.5	9	155
9	10	121	12	156
10	10	152	14	183
11	9	145	12	181.5
12	10	133	13	220
1	10	99.5	11	144
2	10	134.5	13	213
3	11	150.5	12	210
計	120	1507.5	125	1906.5

◇　令和元年度実績

	居宅介護	移動支援
	利用者数延べ人数（人）	利用者数延べ人数（人）
	87	58

◇　振り返り

・　感染対策をしながらも、利用者が安定的に生活できるように工夫しながら、支援をおこなった。

・　契約者 25 名をスタッフ 5 名で利用者の地域生活をサポートした。

・　支援内容としては、土曜日、日曜日の余暇支援を中心ではあったが、通院介助や家事援助の依頼もあり、健康面でもサポートできるように支援をおこなった。

7.　共同生活援助事業

◇　実績

ホーム	入居者	宿泊体験者（契約人数）	泊数
醍醐	9 名（※1）	1 名	週 3 泊 4 日※2
椥辻	8 名	8 名	週 2 泊 3 日※3

※1：12 月より 1 名が宿泊体験を経て入所された。

◇　職員

	夜勤者	アルバイト
醍醐	2 名(1 名はパート職員)	7 名
椥辻	8 名	2 名

◇　振り返り

今年度、醍醐の泊数を 3 泊に戻し、また新規入居者も 1 名が加わった。また、両ホームともに祝日（GW、年末除く）開所を開始した。どちらも家庭の事情などで緊急的に受け入れる入居者が複数いた。保護者の高齢化に伴い、今後もそのような対応が増えることが想定される為、安定した運営が必要となる。

まずは、宿泊数増は課題であり、特に椥辻については 2 年間増やせていない。宿泊数増をしていくにも、現段階では職員数が不足している現状で、醍醐に関しては数少ない女性職員に負担が偏った状態が続いている。職員体制の確保が今後の課題である。

8.　自治会

◇　6/3 公約発表と美化活動

自治会役員（漉き班 4 名アトリエ班から 2 名の計 6 人）が公約の発表を行い、美化活動としてグランドの草抜きをした。

◇　11/17　京都市民防災センター

自治会役員２名と職員２名で京都市民防災センターに行き、防災訓練を行った。

◇　3/10　おつかれさん会

今年度、集会は行わず、自治会役員だけで行った。自治会役員一人ひとりに感謝状を手渡して一年の労をねぎらった。

9.　給食

◇　誕生日メニュー

実施日	メニュー
4/24	玉ねぎと豚肉のフライ、ブロッコリーのたまごサラダ、ふとわかめの味噌汁、ごはん
5/29	チキン南蛮、きんぴらごぼう、コンソメスープ、ごはん
6/26	チーズハンバーグ、ひじき煮、野菜スープ、ごはん
7/31	鶏の唐揚げ玉ねぎソース、卵豆腐、もやしの味噌汁、ごはん
8/28	とんかつ、ひじき煮、ほうれん草の味噌汁、ごはん
9/25	豚肉ロール、ゼリー、しめじの味噌汁、ごはん
10/30	玉ねぎと豚肉のフライ、わかめときゅうりの酢の物、かきたま汁、ごはん
11/27	鶏の唐揚げ、五目豆、玉子のスープ、ごはん
12/25	煮込みハンバーグ、ポテトサラダ、オニオンスープ、ごはん
1/29	鶏の唐揚げ、ほうれん草の磯辺和え、玉ねぎの味噌汁、ごはん
2/26	豚肉ロール、フルーツヨーグルト、しめじの味噌汁、ごはん
3/26	チーズハンバーグ、ツナと白菜のクリームシチュー、フルーツヨーグルト、ごはん

メニュー例

4/24

6/26

7/31

- 最終金曜日は、誕生日メニューとして特別メニューを用意し、誕生月の方には特別に季節のフルーツをつけた。
- 月に 1 回（最終金曜日午後）、利用者、職員、利用者自治会役員、委託業者で、メニューについて嗜好や希望、今後の予定などを話し合う給食会議を行った。

10.　防災、安全対策

◇　避難訓練、防災訓練

全事業所で年２回　避難訓練、防災訓練、消火訓練を行った。

11.　研修

◇　研修

今年度ついては、新型コロナウィルス感染症の蔓延で上半期は京都府、京都市主催の研修が殆ど中止となった為、下半期からの研修参加という状態になった。

10 月
　7 日 京都府強度行動障害支援者養成研修(基礎研修):2 名
11 月
 17 日 防災研修:2 名
　※京都市市民防災センターにて利用者自治会役員 2 名と共に受講、体験
12 月
　14 日 新任職員研修（内部）:4 名
　14、15、16、17 日 計 4 日感染症対策オンライン研修:1 名
 16 日 障害者虐待防止に係る事業所及び施設従事者向け研修:2 名
1 月
　8 日　虐待、防災研修施設内部研修:3 名
　14 日　サービス管理責任者等　更新研修：2 名

◇　見学・実習受け入れ

団体名	受入日
福祉体験実習　呉竹総合支援学校	6/24～6/26
社会福祉援助技術現場実習　京都女子大学	8/1～9/23
社会福祉現場実習　京都医療専門学校	9/14～11/4
保育実習　京都女子大学	1/26～2/8
保育実習　京都光華女子大学	1/27～2/9
保育実習　京都女子大学	2/8～2/19
社会福祉援助技術現場実習　京都女子大学	2/1～2/19
保育実習　京都光華女子大学	2/15～3/1

12.　手づくり市

◇　・目的

・　月に一度開催して利用者の工賃向上を目指す
・　地域での交流を深める
・　他施設と協力して交流を深める
・　利用者の販売参加の機会を作る

◇　・協力団体

新型コロナウィルスの影響があり、開催のやり方を変えて施設を少なくした。

特）すぎなハウス	福）成望館	福）京都身体障害者福祉センター 京都市だいご学園
福）伏見ふれあい福祉会 京都ふれあい工房	福）うめのき福祉会 城陽作業所	

◇　振り返り

新型コロナウィルスの感染拡大を受けて、感染防止策をして開催方法を保護者への注文販売とぐんぐんの利用者に向けての販売にした。
６月と１０月は利用者向けの販売をして、１２月は注文販売のみで開催した。
合計３回であったが、注文の数も多く、利用者も楽しんでいる様子だった。

資　　料

資料-1　理事会・評議員会・各種委員会開催状況

◇　理事会

	開催日	主な決議事項
第 1 回	令和 2 年 4 月 13 日	京都信用金庫からの金銭借入について
第 2 回	令和 2 年 6 月 9 日	令和元年度　事業報告案について 令和元年度　事業決算報告案について（監事監査報告） 評議員会開催案について 活動報告
第 3 回	令和 2 年 9 月 15 日	評議員の選出について 監事の選出について 評議員会開催について 活動報告
第 4 回	令和 2 年 11 月 27 日	活動報告
第 5 回	令和 3 年 3 月 5 日	令和 3 年度事業計画案について 令和 2 年度補正予算案について 令和 3 年度事業予算案について ぐんぐんハウス施設長の任免案について 定款変更について 正規職員転換制度及び無期雇用職員転換制度の関する規定案について 令和 2 年度第 3 回評議員会の開催案について 活動報告

◇　評議員会

	開催日	主な決議事項
第 1 回	令和 2 年 6 月 25 日	令和元年度　事業報告案について 令和元年度　事業決算報告案について（監事監査報告）
第 2 回	令和 2 年 9 月 30 日	監事の選任について
第 3 回	令和 3 年 3 月 9 日	令和 3 年度事業計画案について 令和 2 年度補正予算案について 令和 3 年度事業予算案について

資料-2　苦情対応第三者委員会

◇　開催日　令和２年５月12日

◇　内容

令和元年度の状況報告

▽　報告件数

項目	
ヒヤリハット	２件
事故報告 （車両事故） （利用者事故）	 ５件 ９件
苦情相談	１件

▽　第三者委員より

・　軽微な事例はあるにしても重大な事故につながらず何よりである。
・　服薬ミスについて、いずれも適切な事後対応により重大な事故には至っていないが、種類や薬量によってはリスクが高い。対応策には「確認の徹底」が挙げられているが、加えてシステマティックな対策（手の届かない保管場所、一日分の保管ケース、チェックリストなど）である。
・　パニック状態の利用者の誘導の際に起きる事故について、重度利用者への支援の難しさを感じる。支援方法についてのカンファレンス等の議論の場が、利用者への支援方法だけでなく、対応する職員の思いや悩みを解消される場にもなれば良いと思う。
・　大きな事故につながる報告がなく、現場職員の努力が手にとるように見える。
・　事故や苦情の防止については、小さなインシデントの段階でとどめていき、改善点を洗い出し続けることが肝要である。
・　その際には「ミスは起きるものだ」という前提に立って、発生したことをリカバーできる体制を整えておくことが最善の予防策となる。